





朝日新聞社 寺社文化財 みらいセンター



かけがえのない日本の文化財に、一人でも多くの方が関心を寄せ、「文化財の守り手」になっていただきたい—こんな目標を掲げ、朝日新聞社は社内に専門組織「寺社文化財みらいセンター」を置いています。手を携え文化財を未来につなぐ、命名にはそんな願いを込めました。センターは、文化財の宝庫、京都、奈良を管内に持つ大阪本社にあります。

仏像や建築物、絵画など多くの文化財をお寺や神社、あるいは地域の人々が長く守ってきましたが、文化財が少しずつ老朽化していくことは避けられません。また、観光客に恵まれる有名寺社ばかりではなく、多くの寺社は担い手不足、支え手不足に直面しています。国や自治体の支援も決して十分ではありません。

全国メディアとしてその一助となれるよう、催事の主催や特別協力や、協賛企業の開拓、調査・研究のお手伝い、シンポジウムの共催など、幅広い取り組みを行っています。



寺社文化財みらいセンターの実績 ①

法隆寺 金堂壁画の 調査研究へ協力

世界遺産・法隆寺で戦後まもない1949年、火災で焼損した「金堂壁画」。現存する日本最古の仏教絵画で世界的傑作とされており、文化財保護法制定のきっかけになりました。この人類の宝を次の世代に引き継ごうと、法隆寺に2015年、「保存活用委員会」が設けられました。寺社文化財みらいセンターは委員会の設立段階から加わり、文化庁、関係機関が参加して進めている調査のサポートを続けています。

あわせて、金堂壁画や委員会の最新研究成果を取り上げたシンポジウムも東京で毎年開催。文化財を守る大切さを訴えています。



調査風景の様子



法隆寺金堂壁画をテーマにしたシンポジウム



世界遺産・法隆寺

寺社文化財みらいセンターの実績 ②

文化財の宝庫 京都での活動

古都・京都が世界に誇る文化財を広く伝える活動にも尽力しています。世界遺産・上賀茂神社、仁和寺など文化財を所有する350超の社寺などが会員の「京都古文化保存協会」が毎年春と秋に行う「非公開文化財特別公開」に特別協力。全国紙の強みを生かした特集紙面を軸にした広報や運営補助などを担っています。2015～18年には、俳優の片岡鶴太郎さんが見どころをめぐるBS朝日の特別番組も手がけて誘客につなげました。

19年には、東山・円山公園周辺の知られざる時宗寺院を巡る「KYOTO歴史散歩」を、京都市観光協会などの後援を得て実施。お盆の伝統行事「五山送り火」で知られる大文字山の周辺などを歩き、京都の歴史や自然を考える「落第忍者乱太郎『京都の森を守ろう』」も行いました。



2019年秋 特別公開の広報物(ポスター、チラシ)



東福寺での特別公開の様子

興福寺・東大寺の事業にも尽力

法隆寺と同じく、ともに世界遺産である興福寺と東大寺。寺社文化財みらいセンターでは、奈良を代表するこれら古刹の価値を伝える事業にも取り組んでいます。

興福寺では、文化財ファンおなじみの「国宝特別公開」（朝日新聞社など主催）に企画アイデアの提案や運営などで随時協力。天平彫刻の傑作である国宝・阿修羅像など仏像のCTスキャンによる内部構造調査の研究成果を広く伝えるシンポジウムも2017～19年、東京、奈良、福岡、広島で4都市で行いました。



2019年 興福寺国宝特別公開チラシ 阿修羅像 =興福寺提供

「奈良の大仏」でおなじみの東大寺についても、さらに親しみをもってもらうためのイベントの企画、立案などで協力を続けています。

東京・有楽町朝日ホールで毎年行っている「東大寺文化講演会」では、主催する東大寺や、同寺のサポーター組織・大仏奉賛会とともに、テーマ設定や講師選定などについて知恵を出し合っています。講演会は19年で35回目の節目を迎えました。

広い東大寺を歩き、境内に点在する知られざるスポットを見て学ぶ「東大寺“細”発見」という体験型イベントには、主催団体の一つとして、事前準備から当日の運営までをお手伝いしています。僧侶の案内で、ふだん観光で訪れる機会が少ない場所に特別に入ることもできる貴重な機会。17年に初めて開催し、好評につき既に3回実施しました。



2019年の「東大寺“細”発見」の様子

知られざる 全国の 文化財に 光をあてる 大阪・金沢での試み

文化財保護の観点から、全国の寺社・文化財の魅力を掘り起こし、情報発信に努める……。寺社文化財みらいセンターが掲げる目標に向けた取り組みも各地で展開しています。

その一つが大阪市に点在する古寺の仏教美術を特別公開する事業。大阪は商都のイメージが強いですが、四天王寺と住吉大社を軸に、古くから宗教都市としても発展。市内にはいまま千を超す寺院があり、多数の寺宝を守り伝えていますが、京都や奈良のお寺と比べると知られていませんでした。そこで2017年度から大阪市教委とタッグを組んで、約20カ所（19年度）のお寺などで、仏像や仏画の特別公開を続けています。見どころを伝える記事も朝日新聞紙上に随時掲載しています。



大阪市の非公開寺院の特別公開

北陸新幹線の開業（15年3月）で、その魅力にさらに国内外から注目が集まる金沢。約70カ寺が集まる寺町台地区で、普段は公開されていない寺宝を拝観できる「金沢寺町寺院群文化財特別公開」（北陸朝日放送主催）にも、広報、運営面などで協力しています。17年度に支援を始めて、これまでに3回実施。金沢で記者経験があるスタッフが知恵を絞り、19年度は9カ寺の公開につなげました。



金沢寺町寺院群の特別公開チラシ

クラウドファンディングによる文化財保護も提案

文化財の修復や保存に、インターネットで賛同者の寄付を募る「クラウドファンディング（CF）」が注目されています。寺社文化財みらいセンターでは、文化財を所有するお寺にCF利用も提案。貴重な文化財保護につなげてきました。

国宝「鳥獣人物戯画絵巻」が伝わる京都・高山寺。2018年の台風21号で金堂が損壊するなど億単位ともされる被害が出ました。お寺と長年にわたって信頼関係を築いてきたスタッフは、朝日新聞社のCFサイト「A-port」(https://a-port.asahi.com/)を活用して修復につなげることを提案。出資者へのリターン品（お返し）の選定や、朝日新聞紙面などを通じた広報にも知恵を絞りました。結果、1500人を超す支援者から約2100万円を集めることになりました。

CFは仏師・運慶の仏像5体（国重要文化財）を持つ神奈川・浄楽寺にも提案。お寺は、東京国立博物館で17年に開いた特別展「運慶」（朝日新聞社など主催）に仏像を出展した間に、安置している収蔵庫を改修しようと計画。費用の一部を「A-port」で募り、目標額を上回る寄付を集めることができました。

高山寺CFの画面

浄楽寺CFの画面

テーマ多彩に イベントも 随時展開

全国の寺社や大学、博物館などに日々足を運び、関係者のニーズやトピックをすくい取る中で、実現につなげた主催事業も多種多様。主な試みをご紹介します。

京都・龍谷ミュージアムで2015年に行った企画展「三蔵法師 玄奘 迷いつづけた人生の旅路」(朝日新聞社など主催)は、同ミュージアムと信頼関係を築き、各種展覧会を手がけてきたスタッフが、一貫して運営をサポート。シンポジウムでは、国宝・東寺百合一文書を知る「ひらけ! 歴史の玉手箱 古文書から見える『昔ニッポン』」(17年)▽地域の文化財の魅力に迫る「行こう!見よう! あの町この寺 宝もの」(同)▽「天声人語の名づけ親・西村天因が見た近代日本」(18年)を京都・大阪市で実施。19年秋には大分市で、興福寺の多川俊映寺務老院らを講師に「興福寺 大分・奈良交流シンポジウム2019～つながる歴史と未来～」も主催しました。寺社のあり方を考える上で欠かせないキーワード「神仏習合」から浮かび上がる大分、奈良の歴史・宗教的なつながりを発見してもらおうと実施。会場は満員となりました。



「興福寺 大分・奈良交流シンポジウム2019」の様子



若手僧侶と一緒に仏教に親しむ「修行体験ブッダニア」

寺社や文化財の魅力を体験するイベントも積極的に行っています。

関西の若手僧侶らが宗派を超えてつくる「フリースタイルな僧侶たち」とは、16年から毎年、コラボイベントを続けています。お寺を舞台に坐禅や念仏などに挑戦、僧侶やお寺の日常に親しむ「修行体験ブッダニア」は、毎回多くの若手でにぎわいます。奈良・明日香村のキトラ古墳の極彩色壁画を保存・公開する「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」が開館したのを記念した「親子で見よう! 学ぼう! キトラ・高松塚古墳の壁画」(16年)は、「文化財の守り手」になる子どもたちを育みたいとの思いから実施した企画です。

イベントと一緒に運営した僧侶や研究者からの依頼で、機関誌などに歴史や宗教についての原稿を書かせていただいたり、研究のお手伝いをさせていただいたりすることもあります。朝日新聞出版のサイト「アエラドット (<https://dot.asahi.com/>)」では、アイドルグループを卒業後、19年から写真家としても活動を始めたアーティストの有安果さんと記者経験のあるスタッフが、東京都内の神社仏閣を訪ねて、写真と文章で魅力を伝える企画「ももかアイズ」も掲載。寺社や文化財の盛り上げに関するご協力は惜しみません。私たちにぜひご相談下さい!

朝日新聞

朝日新聞社 寺社文化財みらいセンター

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18 朝日新聞大阪本社 TEL(06)6201-8034 FAX(06)6203-4722



https://twitter.com/asahi_jisha
Twitterアカウント @asahi_jisha



<https://www.facebook.com/asahi.jisha/>
Facebookアカウント @asahi.jisha